

## 三十周年式典お礼

座間道院 道院長 藤野 祐彰



本日此処に、盛大に座間道院三十周年記念が開催でき、多くの関係各位の参加を戴きました事を心から感謝致します。

この三十年色々の事が有りました、しかし今回はその話は致しません。

多忙の中、急な要請にもかかわらず多くの方より寄稿文が寄せられましたし、二十五周年記念誌にも書きましたので、その後の五年の御報告で、お礼の言葉とさせて戴く無礼をお許し戴ければ幸いです。

この5年間、またまた色々在りまして、25周年終了後に「ストレス神経症」を発症し慌てて病院に行き、自分から来院する人は、半分直って居ますよと診断されて気が楽になり、今に至って居ります。

仕事も25周年終了後から景気の煽りをもろに受けて、傾き初め三年前からは独立採算となり、日々の交通費にも苦勞する事態になりました。

しかし、門下生や多くの取引先、支援者に恵まれ何とか暮らして居たところに、あまりの惨状を見かねた、岐阜の増田氏の紹介に拠り、昨年三月に現在の職場に拾われました。

新しい仕事仲間と上司に恵まれ、仕事も拳法も遊びもと楽しく過ごし、昨年11月には長女の大学入学(祐未と遊んで呉れた皆様、もうそんな年になりましたよ。昴も来年県立工業大学校に入学します。)が決まった時頃から、身体に異変を感じて居ました。しかし、一過性のものと考え結局、相当に悪くなってから、受診をし、自分の思っただ通り「食道癌の末期一步手前」と診断され、気管に浸潤もあり更にリンパ節への転移も確認され、手術は不可能で、放射線化学治療を薦められました。

2/24から4/20迄の一回目の入院中に4回の抗ガン剤治療と34回の放射線治療を受け、治癒率40%の中に入り、その後5ヶ月間に五回の抗ガン剤治療入院をし、現在は服用の抗ガン剤を一月まで飲み、精密検査後、今後の方針が決まる段階まで快復致しました。

現状は原発部位の癌は認められず、最後まで残っていた頸部リンパ節の癌も石灰化と推測されて居ます。しかし、油断は禁物の為、来月の再検査の結果に期待するしかありません。

因縁の法則を改めて確認致しました。転職して現在の職場の上司、仲間の暖かい支援に恵まれ無ければ、これまでの治療は安心して受けることは出来ませんでしたし、入院中、入院後の家族の支援、拳法の仲間の励ましが無ければ此処まで快復出来たと思いません。

これで最後とは不思議と思いませんでした。多くの見舞客に毎日囲まれ、生かされている自分を再確認しました。

本当に有り難うございました。

まだまだ、生きていて人の役に立てとの事と理解し、精進してまいります。

最後に、頑張りませんが、諦めません。私の病状を見ながら、急遽開催の決まった、記念式典の準備に奔走して頂いた、関係諸氏に心より感謝申し上げます。